



株式会社サトウプロダクト
大阪本社

- 本社所在地：
大阪府大阪市平野区加美北3-8-37
- 事業概要：
農業用機械部品製造
- 常時使用する従業員：
236名（2025年3月時点 グループ全社）
- 現在の売上高：
44.4億円（2025年3月期 グループ全社）
- 法人番号：5120001020237
- Web：<https://satopro.co.jp/>

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



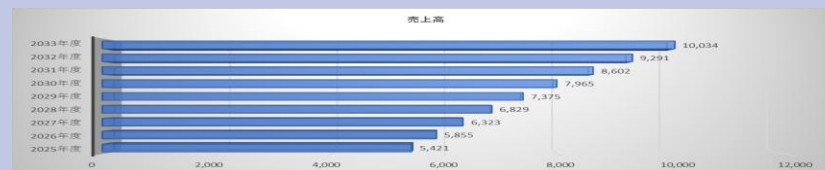
代表取締役
佐藤 広猛

小緑製作所に新工場を増設して関西方面の売上高拡大を図るとともに、本社工場並びにつくばみらい工場に設備投資を行い、既存販売先の売上高拡大と関東方面での新規販売先の開拓によって100億円企業をめざす

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2033年度の売上高達成に向け、年率10%程度の成長を目指す。



課題

関西を拠点とする当社は、本社周辺に12の工場、倉庫を持ち地元住民の雇用促進等、地域経済への波及効果は大きいですが、東大阪や奈良県など、取引先は西日本が中心であった。

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

さらなる売上高向上を目指すために、取引基盤の弱い関東方面を開拓するべく、主要取引先の㈱クボタが工場を保有するつくばみらい市に2022年度に第一工場、2024年度に第二工場を建設した。
これによりグループ売上高が70億円以上となる取引基盤を確保できた。

実施体制

関東方面の取引拡充を進めながら、もう一段のレベルアップを図るために2024年度に㈸小緑製作所（滋賀県）をM&Aにより買収し、新たな人材・専門性の高い人材を獲得することができた。既存の組織や人材では発揮できなかった効果が表れており、グループとして売上高100億円を目指す下地が固まった。

サトウプロダクトグループ 中期経営ビジョン

サトウプロダクトグループ 2025年度経営方針

(2025/4/4)

サトウプロダクトグループ 中期経営ビジョン (2019年4月策定)

経営方針

- 働きがいのある職場作りと社員の成長と幸福をめざす
- 顧客満足度を第一に考え任務を遂行する
- ベンチャー精神を持って新しい価値を創造する

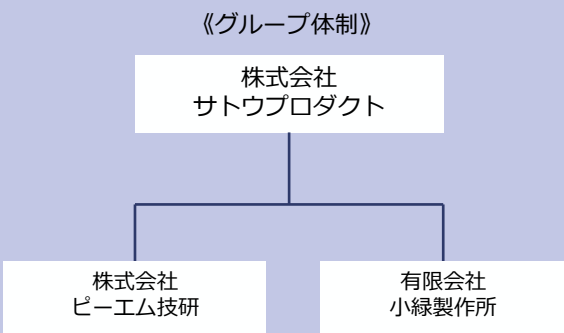
長期経営ビジョン

常に革新的な価値を生み出し
社会に貢献する グローバル総合企業を目指す
売上高 100億円の実現

中期経営ビジョン

新たな仕組み・ルールに基づいた取組みによって、全社員個々の成長と密なコミュニケーションを通じて、高付加価値を創出し、企業の成長と収益の更なる向上を実現させる。

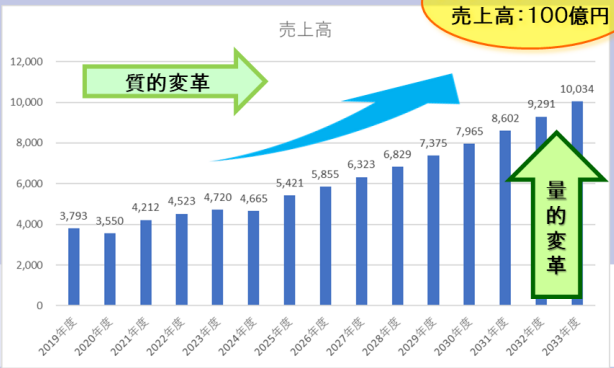
売上拡大	収益力向上(収益重視)
現状のままの拡大(成り行き任せ)	新たな仕組み・ルールに基づいた取組みによる拡大(質的変革)
外注依存・外注任せ	戦略的な外注活用と内製化の推進
建屋間、部門間のコミュニケーションが悪い	積極的な情報共有によるそれぞれの情報格差の解消
人材育成はほったらかし 教えない・指導しない	新人・中途・異動者は特に丁寧な指導 (部下の育成・成長は上司の責任)
組織縦割による個別最適志向	組織間(会社・部門)の壁をなくした組織横断的な一体経営・活動



2025年度経営方針

- 貢献利益の確保(グループ全体で5億円)に向けて、付加価値(全体50.2%、板金事業46.9%)の確保と徹底した原価低減に取り組んでいく。
- 本社工場、つくばみらい工場、特機事業(ピーエム技研、小緑製作所)の連携を深めて、グループ全体での競争力を発揮して、高付加価値案件の受注を目指す。
⇒営業活動や見積もり方法の共有化・標準化が必要
- 協力会社への支給材管理/完成品在庫管理の着手
(新システムへの要件反映と確実な立ち上げ)
- 労働生産性の向上(付加価値/労務費の改善)
⇒溶接工程、プレス工程生産性向上(管理指標の設定)/段取りマンの育成
⇒新システムによる労働生産性を管理するための仕組みの整備
- 協力会社の戦力化(納期遅延・品不解消)
⇒新規協力会社の開拓
⇒既存協力会社に対する指導による業務改善推進(納期遅延/品質不良)

2025年度経営目標 売上高 54億円、経常利益 5億円
(板金32.9億円、特機9.9億円、関東3.6億円、ピーエム3.9億円、小緑4.0億円)



※業績管理シート上のデータ集計(百万円:税込)

2024年度までの主な投資実績

- 堺物流センターへの完成品在庫集約
- 溶接ロボット、スポット溶接、レーザー加工機などの設備投資
- 東大阪工場(特機事業)への投資
- つくばみらい工場(関東進出)への投資
- 細川工場(製缶事業等)への投資
- 金型工場(関西・関東)の立ち上げ
- 小緑製作所との資本提携

2025年度以降の投資計画

- 新システム導入、CAD/CAM導入
- クボタメンブレン増産への対応
- 設備の更新と新規導入 など